

2014年2月（日本国大使館）

安 全 情 報

～2013年中におけるカンボジア犯罪発生状況等～

「自分の身は自分で守る。」をモットーにカンボジアライフを楽しく、良い思い出をつくるため、安全情報を提供させていただきます。

1 2013年中の犯罪発生総件数は下記表のとおり2,716件と前年と比べてほぼ横ばい(1%増)状態ですが、強盗事件は75件(+31%)、窃盗事件は175件(+22%)も増加しており、金品を目的とした犯罪が目立ちました。

特に、強盗については、2011年の218件と比較して、2年間で44%も激増しています。

No.	犯罪種別	2013年	2012年	増減
I	重要犯罪	790	838	-48件(-6%)
1	強盗	315	240	+75件(+31%)
2	殺人	234	290	-56件(-19%)
3	強姦のみ	215	279	-64件(-23%)
4	強姦殺人	7	8	-1件(-13%)
5	監禁（身代金目的）	3	2	+1件(+50%)
6	監禁（その他）	4	9	-5件(-56%)
7	手榴弾攻撃	8	8	±0件(0%)
8	硫酸攻撃	3	2	+1件(+50%)
9	通貨偽造	1		+1件
II	その他の犯罪	1,926	1,851	+75件(+4%)
1	過失（傷害）致死	10	24	-14件(-58%)
2	窃盗	985	810	+175件(+22%)
3	詐欺・背任	71	65	+6件(+9%)
4	傷害	797	825	-28件(-3%)
5	わいせつ	43	85	-42件(-49%)
6	違法武器使用	13	26	-13件(-50%)
7	賭博	7	16	-9件(-56%)
犯罪発生総件数		2,716	2,689	+27件(+1%)

2 2013年に発生した315件の強盗事件のうちの半数近い145件がプノンペン市内で発生しており、更にその半数以上の82件が武器を使用した強盗事件でした。

プノンペンにおける強盗が多い理由について、警察は、「①他の地域に比べて拳銃等の入手が容易である、②犯罪のターゲットになりやすい裕福な者や外国人が多い、③若者を中心とした強盗集団がプノンペンに存在する等の理由が考えられる」としており、更に、若者の強盗集団は金品を強取するためには、拳銃を撃つこともためらわない傾向にあると位置付けています。

3 2013年は、以下2件の邦人被害の拳銃使用強盗事件（うち1件は強盗殺人事件）が発生しており、これらの事件も若者の強盗集団による事件でした。

○ 2013年3月2日午前1時頃、在留邦人男性がトゥクトゥクに乗ってプノンペン市内のボンケンコン地内の自宅アパートに行き、アパート前でトゥクトゥクから降りた際、オートバイに乗った2人組の男性にバッグをひったくられそうになったことから抵抗したところ、犯人の1人に拳銃で腹部を撃たれて死亡した。

○ 2013年9月28日午後8時頃、邦人女性旅行者がプノンペン市内のオールドマーケットの角の交差点で立ち止まった際、徒歩で後方から近づいて来た男性からタスキ掛けにして左脇に抱えていたショルダーバックをひったくられそうになったことから抵抗したところ、犯人に拳銃で左足太腿を撃たれて重傷を負った。

いずれの事件も犯人は逮捕されていますが、犯人は金品を強取するために被害者に拳銃を発射するという残虐且つ大変痛ましい事件です。

いずれの事件も、ひったくりから拳銃使用に発展しており、カンボジアは日本と違い、ひったくり犯人イコール拳銃を隠し持っている可能性があるということとは否定できません。

4 今後、このような不幸な事件の被害者にならないよう、ひったくり（強盗、すり）犯罪被害に遭わないよう、また、被害に遭った場合でも被害を最小限に抑える為に、外出をする際は以下の点に留意して下さい。

○ カンボジア国内において安全な場所、時間帯はないという意識を持つこと。（前述の邦人女性旅行者被害の事件のように、人通りが多い場所及び時間他でも拳銃使用による強盗犯罪が発生しています。カンボジアは日本と違うという認識を新たにするようお願いします。）

○ 外を歩く際は、出来る限り手荷物を持たないようにし、可能な限り両手を自由にしておくこと。

○ やむを得ずバック等を所持する場合は、高価なバック等は避け、バックの中には多額の現金や高価なものは入れないこと。

- バックは肩に掛けているとひったくられやすく、また、タスキ掛けにした場合、取られにくい反面、強奪された場合、負傷する可能性が高いということを認識すること。(引きずられる、武器を使用される等)
- 自転車のかごには貴重品の入ったバックを入れないこと。

※ ひったくり犯人のほとんどがオートバイを使用してひったくりを敢行しており、オートバイを使用したひったくり犯人にとって、自転車のかごに入っている物はひったくりやすいと思われます。ひったくり犯人にひったくりを行うすきを与えないよう、①バックの代わりにリュックサックを背負って自転車を運転する②かごに物を入れる際は、「ひったくり防止カバーネット」を使用するなどの方法により、ひったくり被害を防止してください。(「ひったくり防止カバーネット」の購入はカンボジアでは難しいかもしれませんが、かごの隅をヒモで結ぶだけでも効果はあると思われます。)

【ひったくり防止カバーネット】



▲カバータイプ



▲バンドタイプ



▲ネットタイプ

- 不必要に多額の現金を持ち歩かない(使用する予定の現金のみ持ち歩く)、又、ズボンの後ろポケットに財布を入れないこと。
- 夜間の外出はできる限り避け、日中でも徒歩による移動は控えること。
- 外出中は不審者や尾行者がいないか時々確認し、尾行者等に気づいたら、子供であっても油断せず、人が大勢いる商店等に待避してやり過ごすこと。
- 徒歩中にスマートフォンやデジカメ等高価なものをむやみに取り出さないこと。

※ トゥクトゥクの運転手が強盗を行うケースもあることから、以下の点に注意してください。

- 移動は、出来る限りメータータクシーを利用し、やむなくトゥクトゥクを利用する場合には、利用したことのある信頼のできるドライバーを電話で呼ぶ、若しくは旅行代理店から紹介を受ける、或いはホテルやレストランの従業員の顔見知りの運転手を指定してもらうこと。

- 乗車してからも気を抜かず、指示と異なる方向に向かっていないか常に周囲の様子を確認する。また、運転手が指示に従わなかった場合や、おかしいと感じたりした場合には、人気のある明るい場所で停車させて降車すること。

5 不幸にも犯罪被害に遭遇した場合は以下の点に留意して下さい。

※ 第一に身の安全を最優先に考えること!

- ① ひったくり犯罪被害時
 - ひったくり犯であっても、拳銃を隠し持っている可能性があるという意識を常に持つこと。
 - 場合によっては、身の安全を第一に考え、バックをそのまま犯人に渡すことも考慮する。
(被害を最小限に抑える為にも、外を歩く場合は①出来るかぎりバックを携行しない②バックを携行する場合でも貴重品や多額の現金を入れないこと。)
- ② 凶器を使用した強盗被害時
 - 絶対に抵抗しない。
 - 両手を挙げて無抵抗の意思を示す。
 - 犯人を追跡せず、直ぐに警察に連絡する。
- ③ 銃器の発砲事件等に遭遇した場合
 - その場に伏せる。
 - 不用意に動かない。

カンボジアは過去と比較して安全になったイメージがありますが、犯罪は依然として頻繁に発生しています。日本と比べて当地での生活には特に注意し、○危険な場所には近づかない、○夜間に人通りが少ない道の1人歩きはしない、○深夜の不要の外出は控える、○多額の現金や貴重品は持ち歩かない、○見知らぬ人を安易に信用しない、○買い物は信用のおける店を選ぶ、○ホテルの中でも安心しない、○犯罪に遭遇した場合抵抗しない、など「自分の身は自分で守る。」をモットーに防犯に心掛けて下さい。